国際社会においてスポーツの力により「多様性を尊重する社会」「持続可能で逆境に強い社会」「クリーンでフェアな社会」を実現するため，国際的な政策・ルールづくりに積極的に参画し，スポーツを通じた国際交流・協力を戦略的に展開する。
ラグビーワールドカップ２０１９及び２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を歴史に残るものとして成功させ，その後のレガシーとしてスポーツ文化を継承する。

［現状と課題］

・ 国際オリンピック委員会，国際パラリンピック委員会，国際競技団体等の国際機関における日本人役員は25人（平成28年11月現在）で先進諸国に比べ少なく，また，国際的な情報収集能力及び戦略的な情報発信能力が不足している。
・ スポーツを通じた国際交流・協力に関して，国内関係機関の連携が十分でなく，スポーツ団体の国際業務体制も十分に整っているとは言えない。また，スポーツに関する国際的な動向と国内の施策の連携が十分でない。

［具体的施策］

ア 国は，ＪＳＣ，ＪＯＣ，ＪＰＣ及び中央競技団体と連携し，国際人材の発掘・育成，ロビー活動支援及び職員派遣・採用の増加等を通じて，国際スポーツ界の意思決定に積極的に参画する。（国際オリンピック委員会，国際パラリンピック委員会，国際競技団体等の国際機関における日本人役員数　平成28年11月現在25人→目標35人）

イ 国は，国際競技大会や国際会議等のスポーツＭＩＣＥ[*21]の積極的な招致，開催を支援することにより，国際的地位の向上及び地域スポーツ・経済の活性化を推進する。

ウ 国は，国際連合教育科学文化機関（ＵＮＥＳＣＯ）のスポーツ会合等への積極的な参画や，アジアを中心とした政府間会合を積極的に開催することを通じて国際的なスポーツ政策づくりに貢献するとともに，二国間協定・覚書を戦略的に締結することにより，計画的な対外アプローチを推進する。

エ 国は，地方公共団体及びスポーツ団体等の関係機関と連携し，ＳＦＴ等により，計画的・戦略的な二国間交流や多国間交流・協力を促進する。（目標：ＳＦＴによりスポーツの価値を100か国以上1,000万人以上に広げる。）

オ 国は，国際連合の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の提言等の国際動向も踏まえ，スポーツによる国際交流・協力をＳＦＴが終了する2020年以降も継続できる仕組みを構築することにより，スポーツの価値の持続的な共有を推進する。

カ 国は，地方公共団体及びスポーツ団体等と連携し，諸外国におけるスポーツに関する情報を戦略的に収集・分析・共有するとともに，スポーツ団体等における国際業務の体制の強化及び国内の関係機関との効果的な連携体制の構築を実現する。

[*21] MICEとは，観光庁の定義によると，企業等の会議（Meeting），企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel），国際機関・団体，学会等が行う国際会議（Convention），展示会・見本市，イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり，多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称である。

キ 国は，ラグビーワールドカップ２０１９及び２０２０年東京大会について，政府の基本方針に基づき，開催都市，ラグビーワールドカップ２０１９組織委員会及び東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会による円滑な開催を支援することにより，両大会の成功に貢献する。

ク 両大会後に開催され，30歳以上なら誰でも参加できる国際競技大会であるワールドマスターズゲームズ２０２１関西など大規模な国際競技大会[*22]の円滑な開催に向けて関西ワールドマスターズゲームズ２０２１組織委員会等と協力する。

ケ 国は，新国立競技場について，関係閣僚会議において決定した整備計画に基づきＪＳＣの整備プロセスを点検し，２０２０年東京大会のメインスタジアムとして着実に完成させるとともに，同大会後の運営の在り方や手法を検討し，スポーツ事業を主とした利用率の向上や維持管理費の抑制を図る。

コ 国は，東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会，東京都，ＪＯＣ及びＪＰＣと連携を図りつつ，スポーツやオリンピック，パラリンピックの意義を普及啓発するオリンピック・パラリンピック教育等によりオリンピックムーブメントやパラリンピックムーブメントを推進し，スポーツの価値を全国各地に拡大する。併せて，スポーツに関する多様な資料を保有する社会教育団体，スポーツ団体及び大学等は相互に連携し，資料のアーカイブ化やネットワーク化を推進し，当該資料の利活用を促進する。

[*22] 第２期計画期間中に我が国で開催が予定されている大規模な国際競技大会としては，例えば以下のようなものが挙げられる。
平成30年：女子バレーボール世界選手権２０１８（開催地未定），第１６回世界女子ソフトボール選手権大会（千葉県）
平成31年：２０１９年女子ハンドボール世界選手権大会（熊本県内），世界柔道選手権大会（東京都），ラグビーワールドカップ２０１９（全国12都市），２０１９世界フィギュアスケート選手権大会（埼玉県さいたま市）
平成32年：２０２０年東京大会（東京都，関係自治体）
平成33年：ワールドマスターズゲームズ２０２１関西（関西圏），世界水泳選手権大会（福岡県福岡市）